

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	ロケーション関連事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	森田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業	
開始年度	○ 昭和 ● 平成	15 年度	根拠		
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画	● 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	映画、ドラマ、CMなどの撮影を区内に誘致し、映像を通して区のイメージアップを図る。				
対象者等	映画、ドラマ、CMなどの制作会社				
内容	ロケに関する相談受付、情報提供、区施設使用に係る連絡調整 ※旧道灌山中学校については耐震基準を満たしていないため、平成24年度末を以って暫定利用を終了した。				
経過	平成13年 3月 道灌山中学校廃校 9月 校舎をACCに無償貸与 平成15年 2月 ACCがロケ場所として提供（映像制作コーディネータに貸付け） 10月 ACCへの無償貸与中止、区が映像制作コーディネータに貸付け 平成17年 4月 公募により、コーディネータの選定 平成18年 6月 貸付け方法の見直し 平成19年 3月 公有財産管理運用委員会において、平成22年度まで延長決定 平成20年 6月 25年3月までの暫定利用期間の延長の方向（3ヵ年） 平成25年 3月 施設閉鎖に伴い平成24年度末を以ってロケ施設事業終了				
必要性	映像を通じた区のイメージアップ及び施設の有効活用を図ることができる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ○ 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員）				

		(単位：千円)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算・決算額等の推移	予算額	1,382	1,396	1,352	1,597	1,383	1,345	0
	①決算額（25年度は見込み）	627	647	666	777	781	537	0
	②人件費等	1,342	424	1,018	1,570	1,241	1,226	
	③減価償却費				1,017	1,089	1,129	
	【事務分担当】（%）	30	25	30	35	35	35	
	合計（①+②+③）	1,969	1,071	1,684	3,364	3,111	2,892	0
	国（特定財源）							
都（特定財源）								
その他（特定財源）	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276		
一般財源	-1,307	-2,205	-1,592	88	-165	-384	0	
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	旧道灌山中学校利用件数	73	58	72	62	66	77	
	その他区施設でのロケ件数	27	36	33	44	10	13	
	ロケに関する相談等受付件数	51	90	59	91	114	136	

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		光熱水費	電気料	74	電気料	80	
需用費	建物修繕	0	建物修繕	0			
役務費	受水槽清掃ほか	12	受水槽清掃ほか	12			
委託料	清掃、管理、警備、ロケ調査	695	樹木選定、管理、警備	445			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
標	① 旧道灌山中学校利用件数	62	66	77	—	—	暫定利用（平成25年3月終了）
	② その他の区施設でのロケ件数	44	10	13	15	15	公園の利用状況 ※22年度までは体育館も含む。
	③						

（問題点・課題分析）	①撮影場所の問合せ等に対して、職員個人の知識経験値から回答している部分が多く、体系的な仕組みづくりが必要である。
	（実施 3 区 未実施 区） 台東区フィルムコミッション（平成17年度～）、すみだフィルムコミッション（平成23年度～） 学校施設の提供は、台東区、豊島区が実施

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	過去の問い合わせやロケ調査等の実績を活用し、体系的なFCデータベースの構築を図る。	25年度中に構築する区内FCデータベースの活用と改善を重ねていく。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
改善・見直し	継続	当事業のメインであった旧道灌山中学校を利用したロケ事業が24年度末を以って終了し、ロケの核となる施設が存在しなくなった。

（状況）	H14二定 FCの検討について H14三定 「ロケの街」として売り込むための取り組みについて H21一定 「フィルムコミッション」への取り組みについて
------	---

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	観光情報提供事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	池田、三宮、森田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	観光情報提供事業（01-01-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
開始年度	○ 昭和 ● 平成 14 年度		根拠		
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分 ● 計画 ○ 非計画		
行政評価事業体系	分野	産業革新都市〔Ⅲ〕			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成〔06〕			
	施策	観光による地域活性化の推進〔06-01〕			
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。				
対象者等	区外の人々及び区への来訪者				
内容	①観光ガイド（イベントカレンダー）の作成（平成14年度～）*平成22・23年度版は英語版も作成 ②HPに区内行事のインターネット動画配信（平成14年度～） 平成18年度から9件（都電荒川線沿線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏方神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社大祭、石浜神社神幸祭、熊野前サンバカーニバル）を常時配信 ③平成21年度、②で製作した動画のダイジェスト版を作成（5イベント） ④HPに都電荒川線花見どころサイトの開設（平成14年度～） ⑤まちあるきマップの作成（平成17年度 日暮里・南千住、18年度 都電荒川線沿線、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電荒川線沿線に舍人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中マップ作成、22年度 都電舎人ライナー沿線、23年度 日暮里改訂、千住散策マップ作成、日暮里・谷中増刷改訂、24年度 南千住改訂） ⑥観光PR協力所の設置74か所（H25.3.31現在） ⑦都電荒川線散策マップ（平成19年度） ⑧行政観光パンフレットの作成（平成20年度作成、23年度改訂） ⑨観光スポット特集冊子の作成（平成20年度） ⑩区HPのトップページに観光情報バナーを開設（平成21年度）、都電関連バナーを開設（平成23年度） ⑪京成日暮里駅構内PRコーナーの運営（平成24年度～ 掲示板2か所、パンフレットラック1台） ⑫イメージポスター作成（平成24年度） ⑬ツイッター開始（平成24年度）※荒川区観光大使PR事業 ⑭日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新（平成25年度～）				
経過	平成22年度から観光ボランティアガイドを受入体制整備事業へ移管した。				
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加を図ることができる。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
予算額	5,933	10,000	5,681	6,984	4,155	2,226	2,407	
①決算額（25年度は見込み）	4,776	6,411	4,738	3,590	3,475	1,485	874	
②人件費等	11,102	11,255	9,895	11,476	7,622	6,196		
③減価償却費				3,922	2,799	2,420		
【事務分担量】（%）	130	140	125	135	90	75		
合計（①+②+③）	15,878	17,666	14,633	18,988	13,896	10,101	874	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）				184	341			
一般財源	15,878	17,666	14,633	18,804	13,555	10,101	874	
実績の推移	事項名							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
観光ガイド(イベントカレンダー)	20,000部	20,000部	32,000部	33,000部	33,000部	30,000部	30,000部	
まちあるきマップ(区単独)	116,000部	68,000部	160,000部	92,000部	118,000部	118,000部	—	
まちあるきマップ(他区連携)			日谷作成	日谷(外)作成	千住作成、日谷改訂		—	
観光PR協力所設置件数(延べ)	38力所	51力所	64力所	66力所	67力所	74力所	80力所	

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		一般需用費	パンフレットスタンド購入等	132	パンフレットスタンド購入等	94	パンフレットスタンド購入等
役務費	郵送料	279					
委託料	まちあるきマップほか	3,064	まちあるきマップほか	1,391	観光ガイド作成ほか	2,124	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	観光PR協力所の設置件数 (延べ件数)	66	67	74	80	85	
②							
③							

（問題点・課題 指標分析）	①区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠となるが、そのためのツールの開拓が必要である。
	他区の実況 (実施 22 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区内を走る鉄道事業者イベント等の情報を積極的に提供し、沿線へのPRを図る。	新たな情報発信ツールを開拓し、積極的な情報発信に努める。
②	マスコミ等への情報提供をより一層推進する。	マスコミ等とのつながりを深め、情報の露出度をより一層高める。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	観光情報の発信は、来訪者の増加を図るために欠かすことが出来ない。

議会質問状況 (要旨)	H16一定	観光振興に学芸員を活用して。
	H16三定	観光組織づくり。観光スポットを売り込む。
	H16三定	コリアンタウンの情報発信をすべきである。
	H16四定	観光ガイド養成講座を開設。菓子問屋ミュージアムの開設。
	H18三定	観光マップの活用を図るため、協力店を募集し、配布拡大を図るべきである。
	H18四定	日暮里、三河島の再開発ビルに「観光案内ステーション」を設置し、観光スポットを発信する。
	H24一定	日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	荒川区観光大使PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	三宮	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	荒川区観光大使PR事業（01-01-02）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業	
開始年度	○ 昭和 ● 平成	18 年度	根拠	荒川区観光大使設置要綱	
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画	○ 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の魅力を積極的に紹介していただける著名人を「荒川区観光大使」として任命し、幅広い人脈やネットワークを活かした協力を頂き、荒川区のPRとイメージアップを図る。 ・ 小中学生が区外児童生徒との交流を通じて「あらかわ魅力伝え隊」として区のPR活動を行うことにより、郷土意識の醸成を図る。 ・ 区の観光情報を区外に発信する意志のある個人や企業を観光PRサポーターとし、草の根的なPR活動を展開していくことで、荒川区への誘客を図る。 				
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 ・ 区内小中学生 ・ 荒川区観光公式twitterのフォロワー 				
内容	<p>（観光大使）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 それぞれの立場において機会あるごとに荒川区のPRをしてもらう。 2 荒川区観光大使の名刺を作成。 3 区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。 4 PR物品として、都電荒川線のポストカード、産業振興シンボルキャラクター「わざ丸」の携帯ストラップを作成。 5 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名 6 観光大使に対して、区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフ等）を随時提供。 7 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成（19年度新規作成、23年度改訂） <p>（あらかわの魅力伝え隊）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 観光大使の補助的役割を担う 2 区内小中学生が、区外の児童と交流する場において、名刺や観光パンフレットを配布する。 <p>（観光PRサポーター事業）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 区の魅力や観光情報を積極的に区外に向けて発信する意志のある個人や企業を、観光PRサポーターとして登録。 2 当面は荒川区観光公式twitterアカウントのフォロワーのうち希望する者を観光PRサポーターと位置付ける（平成25年中に登録開始予定）。 				
経過	<p>平成20年度 「あらかわの魅力伝え隊」を試行実施（平成21年度～本格実施）</p> <p>平成24年度 荒川区観光公式twitterを開始</p> <p>平成25年度 荒川区観光PRサポーター登録開始予定</p>				
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
予算額	759	686	318	315	586	638	236	
①決算額（25年度は見込み）	331	343	225	85	292	353	236	
②人件費等	2,562	1,694	1,221	1,308	2,541	826		
③減価償却費				436	933	323		
【事務分担量】（%）	30	20	15	15	30	10		
合計（①+②+③）	2,893	2,037	1,446	1,829	3,766	1,502	236	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,893	2,037	1,446	1,829	3,766	1,502	236	
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
実績の推移	観光大使任命(人)	0	0	0	0	0	0	0
	区長との対談(回)	0	0	1	1	0	0	1
	PR活動	冊子作成	名刺・ポストカード	ストラップ	ストラップ	冊子作成	名刺作成	
	あらかわの魅力伝え隊		2回	1回	1回	0回	0回	0回
	観光公式twitterフォロワー数	—	—	—	—	—	250	1,000

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		需用費	大使PR物品	17	大使PR物品等	353	大使PR物品等
	PR冊子作成	275			会食費	43	
	使用料賃借料				会食会場使用料	18	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	観光公式twitterフォロワー数	—	—	250	1,000	2,000	
②	観光PRサポーター数	—	—	—	20	30	
③	魅力伝え隊活動実績（回）	1	0	0	0	0	学校による他自治体との交流の場の回数

問題点・課題 (指標分析)	①観光PRサポーター制度の構築に当たっては、旬な情報を効率的・効果的に発信・拡散できるような仕組みが求められる。
	他区の実況 (実施 6 区 未実施 16 区) 中央区（ミス中央）3人、台東区（たいとう観光大使）18人、豊島区（ソメイヨシノ桜の観光大使）3人、北区（北区アンバサダー）6人、品川区（観光大使）5人、墨田区（すみだ親善大使）3人

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	観光PRサポーター制度については、情報の即時性や拡散性を担保するため、観光twitterとの連携を図った形で構築する。	観光PRサポーター制度の活用に合わせて、情報の発信・拡散だけでなく、そのための情報収集まで行えるような仕組みを構築する。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	引き続き、観光大使のPR力の活用と観光twitterによる情報発信とを進めていく。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	山岸	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	産業観光推進事業（01-02-01）				
事務事業の種類	○新規事業（○25年度 ○24年度） ○建設事業 ●それ以外の継続事業				
開始年度	○昭和 ●平成 14年度	根拠			
終期設定	○有 ●無 年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街荒川のイメージアップと産業観光を推進する。				
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者				
内容	<p>○観光PRコーナーの設置（おすすめ品の販売等）・（平成24年度実績） ①あらかわの伝統技術展、②荒川区産業展、③TCK大井競馬場、④つくば市産業展、⑤鉄道フェスティバル（尾久駅構内）、⑥路面電車の日、⑦都電荒川線の日、⑧バラの市、⑨まるごとバザールin大垣、⑩都庁観光情報センターPRコーナー（伝統工芸、マイスターの実演）、⑪モノスポ2012、⑫隅田川駅貨物フェスティバル、⑬ヤクルトファン感謝デー、⑭奥の細道結びの地記念館オープニング（大垣）、⑮芭蕉楽市（大垣） ※ はブランドの物販あり</p> <p>○「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 平成17年度 荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1（33商品） 平成18年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編（伝統工芸品47商品、荒川マイスター製品17商品）（計64商品） 平成20年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂（伝統工芸品44商品、荒川マイスター製品18商品）（計62商品） 平成22年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂（伝統工芸品43商品、荒川マイスター製品19商品）（計62商品） 平成25年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂（予定）</p> <p>○モノづくり見学・体験スポット整備支援事業 「モノづくり」工房や、ギャラリー等を一般公開する者に対し、スポットとして認定する。なお、必要に応じて改修等の費用を補助する。 2/3補助（100万円上限）うち1/2は都補助あり 平成19年度 2件 平成20年度 6件 平成21年度 4件（計12件） 平成22年度 3件（計14件）※1件廃止あり 平成23年度 3件（計16件）※1件辞退あり、平成24年度 2件（計17件）</p>				
経過	○平成20年度 ①都電ウォークラリーは分離し、単独事業へ。②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合した。 ③伝統技術展は経営支援課へ移行した。 ○平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え				
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することは、地域の産業活性化に資するところが大きい。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）				

		（単位：千円）							
予算・決算額等の推移		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	予算額	11,713	9,552	8,179	8,321	5,551	5,422	4,810	
	①決算額（25年度は見込み）	4,814	7,521	3,475	3,324	3,328	2,683	6,343	
	②人件費等	11,346	5,929	5,700	7,848	8,046	9,913		
	③減価償却費				2,615	2,955	3,872		
	【事務分担量】（%）	140	70	70	90	95	120		
	合計（①+②+③）	16,160	13,450	9,175	13,787	14,329	16,468	6,343	
	国（特定財源）								
	都（特定財源）	698	2,516	888	672	856	823		
	その他（特定財源）								
一般財源	15,462	10,934	8,287	13,115	13,473	15,645	6,343		
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	PR事業(回)	9	11	12	15	13	15	15	
	内、ブランドPRイベント(回)	7	8	8	10	9	11	10	
	商品紹介冊子作成(部)		20,000		25,000			25,000	
	モノづくり見学体験スポット	2	6	4	3	3	2	6	

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	審査委員謝礼等	66	審査委員謝礼等	160	審査委員謝礼等
一般需用費	参考図書購入	1	荒川ブランドPR	10	荒川ブランドPR	100	
旅費	大垣	71	大垣	78	大垣	72	
委託料	イベントPR設営等	1,882	イベントPR設営等	1,904	イベントPR設営等	2,148	
使用料	荒川ブランドPR	198	荒川ブランドPR	322	荒川ブランドPR	421	
負担金	スポット補助金	1,110	スポット補助金	122	スポット補助金	2,000	
償還金			都補助返還金	87			

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	イベント会場での実演・展示実施件数	15件	13件	15件	15件	15件	
②	モノづくり見学・体験スポットの件数	14件	16件	17件	23件	25件	数値は累計
③							

（問題点・課題）	<p>①モノづくり見学・体験スポットを増やし、モノづくりのまち荒川を効果的に発信する必要がある。</p> <p>②スポットのPRをより一層行い、見学・体験数を増やす必要がある。</p>
他地区の実況	<p>（実施 5 区 未実施 17 区）</p> <p>東京都産業を活かした観光ルート整備支援事業活用区 台東区（中小製造業アトリエ化支援事業）、豊島区（伝統工芸を巡る小路案内事業）、墨田区（3M運動ガイドマップ）、板橋区（産業観光整備事業）、江東区（ものづくりマップ作成）</p>

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	モノづくり見学・体験スポットPRイベント「あらかわモノスポ」については、昨年に引き続き、出店事業者のニーズを踏まえながら実施する。	実施方法について、前年度の反省点を踏まえながらレベルアップを図る。
②	「あらかわモノスポ」において、来場者を区内へ誘導する仕掛けを実施する。	スポット訪問が実際の製品購入に繋がるよう工夫をする。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
重点的に推進	重点的に推進	モノづくり見学・体験スポットの新規開拓及び更なる周知を図る。

（状況）	H17二定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。
------	-------------------------------

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	観光イベント助成	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	村中、吉野、池田、山岸、森田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	川の手荒川まつり事業(01-03-01) 観光イベント助成(01-03-02)				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業	● それ以外の継続事業	
開始年度	● 昭和 ○ 平成 62 年度		根拠	荒川区観光振興事業補助金交付要綱	
終期設定	○ 有 ● 無 年度		法令等	川の手荒川まつり実行委員会実施事業補助金交付要綱	
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	区民の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。				
対象者等	区民主体の民間団体				
内容	<p>1 川の手荒川まつり実行委員会補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度 南千住野球場 20,004千円(20回記念シンポジウムや郷土芸能の祭典) 平成19年度 東尾久運動場 7,465千円 平成20年度 荒川遊園運動場 7,832千円 平成21年度 汐入公園 7,875千円 平成22年度 南千住野球場 8,191千円 平成23年度 東尾久運動場 62千円(中止) 平成24年度 東尾久運動場 9,197千円 <p>2 観光振興事業補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度 2件 100千円(ホテル鑑賞のタペ 50千円、矢立初めの俳句大会 50千円) 平成19年度 4件 180千円(ダイヤモンド富士 50千円、鈴虫の音色を聞く会 30千円、矢立初めの俳句大会 50千円、隅田川お花見クルーズ 50千円) 平成20年度 5件 1,182千円(日暮里舎人開業イベント 1,000千円、鈴虫の音色を聞く会 32千円、矢立初めの俳句大会 50千円、隅田川お花見クルーズ 50千円、日暮里織維街マップ作成 50千円) 平成21年度 5件 1,149千円(日暮里さくら祭り 973千円、鈴虫の音色を聞く会 26千円、矢立初めの俳句大会 50千円、隅田川お花見クルーズ 50千円、左内まつり 50千円) 平成22年度 3件 243千円(日暮里駅前広場イベント 167千円、鈴虫の音色を聞く会 26千円、矢立初めの俳句大会 50千円) 平成23年度 6件 984千円(日暮里駅前広場イベント 758千円、オオムラサキ鑑賞会 50千円、秋の鳴く虫鑑賞会 50千円、鈴虫の音色を聞く会 26千円、ハロウィン 50千円、富士見坂パンフ作成 50千円) 平成24年度 7件 1,283千円(日暮里電車まつり 987千円、富士見坂ライブカメラ設置 50千円、オオムラサキ鑑賞会 50千円、スイーツコレクション 47千円、秋の鳴く虫鑑賞会 50千円、ハロウィン 50千円、富士見坂写真展 49千円) <p>3 駅からハイキングにおける商店街PRのための補助</p> <p>多数の外客が見込めるイベント等において、下町商店街の魅力伝え、再訪を促す取組を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度(芭蕉旅立ちの日(碑)と下町商店街散策) 平成21年度(下町商店街とバラの街「あらかわ」めぐり) 平成22年度(下町商店街とバラの街「あらかわ」めぐり) 平成23年度(タイムトラベル！昭和から平成へ、あらかわめぐり) 平成24年度(自然いっぱい・歴史とモノづくりの街、荒川をたずねて) <p>※平成25年度はJRによる実施方法が変更となった(駅ぽ:スマホのGPS機能を使った通年のまちあるき)ため、補助の予定なし。</p> <p>4 隅田川花火大会実行委員会への負担金</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度 50万円(オブザーバ参加) ・平成25年度 150万円(実行委員会負担金) 				
経過	<p>○川の手荒川まつり</p> <p>昭和62年以来、(計5回を除き)毎年4月29日(祝)に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で毎年開催することをルール化した。</p> <p>○平成23年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。 				
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが出来る。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ● 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
予算額	10,074	12,688	12,340	12,310	10,407	12,325	13,794	
①決算額(25年度は見込み)	9,927	11,490	11,845	11,218	1,775	12,076	13,494	
②人件費等	9,271	10,049	9,798	11,737	9,287	7,977		
③減価償却費				4,503	4,043	3,550		
【事務分担当】(%)	130	140	145	155	130	110		
合計(①+②+③)	19,198	21,539	21,643	27,458	15,105	23,603	13,494	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	19,198	21,539	21,643	27,458	15,105	23,603	13,494	
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	シダレザクラ祭り参加者	7,000人	7,000人	8,500人	10,000人	中止	9,200人	中止
	事業補助金(日暮里イベント含む)	4件	5件	5件	3件	6件	7件	8件
	川の手荒川まつり来場者	60千人	60千人	60千人	60千人	中止	70千人	70千人
	川の手荒川まつり参加団体	134	139	147	146	中止	140	132

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		補助金	事業補助金	226	事業補助金	296	事業補助金
	駅ハイ補助金	232	駅ハイ補助金	143	駅ハイ補助金	300	
	川の手荒川まつり補助金	62	川の手まつり補助金	9,197	川の手まつり補助金	9,825	
	日暮里イベント	758	日暮里イベント	987	日暮里イベント	1,000	
			隅田川花火大会	500	隅田川花火大会	1,500	
一般賃金	臨時職員	497	臨時職員	554	臨時職員	576	
時間外手	時間外勤務手当	0	時間外手当	398	時間外手当	243	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	観光事業補助金申請件数	3件	6件	7件	8件	8件	日暮里イベントを含む
②	川の手荒川まつり来場者数	60千人	中止	70千人	70千人	70千人	
③							

問題点・課題 (分析課題)	①川の手荒川まつりについて、現在4会場にて毎年ローテーション開催しているが、出店ブースや来場者の休憩スペースなどの確保が困難な会場もあるため、今後見直しが必要である。
	②隅田川花火大会については、荒川区における観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整し安全対策を万全に図らねばならない。
他区の実況	(実施区 未実施区)

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	川の手荒川まつりの実施会場について、見直し・絞り込みを行う。	会場の決定及び実施方法については常に見直しを行う。
②	隅田川花火大会に向けて、地域関係者による荒川区地区本部連絡協議会を設立し、観覧者の安全確保等のための調整を行う。	汐入地域における観覧者の安全対策を一層進めるとともに、地元商店街等の活性化に結び付くような取り組みを行っていく。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
重点的に推進	重点的に推進	区民・事業者の自主的活動こそが、観光振興による地域活性化を図る上で欠かせないものであり、支援を進める必要がある。

議案 (要旨)	H16一定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について H14三定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について H17二定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。
------------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	観光振興懇談会運営費	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	吉野	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	観光振興懇談会運営費(01-04-01)				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 18 年度	根拠	荒川区観光振興懇談会設置要綱		
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画 ○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会において、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討いただき、その提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。				
対象者等	学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等				
内容	<p>【平成18年度】 懇談事項</p> <p>1 区内の観光及び観光資源の現状 2 これまでの観光振興施策 3 他自治体における事例等の調査研究 4 調査機関による基礎調査の分析・検討 5 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策</p> <p>【平成19～23年度】 18年度の調査報告書、懇談会提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証</p> <p>【視察経過】 第4回懇談会 川越市視察 第8回懇談会 都電荒川線荒川車庫等、区内視察 第9回懇談会 山谷(城北旅館組合)・谷中地域視察</p>				
経過					
必要性	専門家からの提言・示唆を活かすことで、より効果的な区の観光振興施策を推進していくことが出来る。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員)				

		(単位：千円)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算・決算額等の推移	予算額	2,142	1,104	765	669	773	324	249
	①決算額(25年度は見込み)	412	474	109	108	0	23	
	②人件費等	3,416	2,541	814	872	423	413	
	③減価償却費				291	156	161	
	【事務分担当】(%)	40	30	10	10	5	5	
	合計(①+②+③)	3,828	3,015	923	1,271	579	597	0
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	3,828	3,015	923	1,271	579	597	0
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	観光基礎調査	実施						
	懇談会	5回	2回	1回	1回	0回	0回	0回
	研究会						1回	1回

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	委員報酬	0	勉強会謝礼	23	委員報酬
旅費	旅費等	0			旅費等	9	
食糧費	賄い	0			賄い	23	
一般需用	消耗品	0			消耗品	50	
役務費	テープ反訳	0			テープ反訳	35	
使用料	会場使用料	0			会場使用料	7	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①							
②							
③							

(問題点・課題 指標分析)	①懇談会での提言等を、具体的な施策の構築のために活用していく必要がある。
他区の実況	(実施 7 区 未実施 15 区)

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	より実践的・具体的に区の地域特性、資源を活かした独自性ある観光振興、にぎわい創出について検討、実施していくための職員向け研究会を引き続き実施し、具体的な施策の実現へと繋げる。	懇談会や研究会を通じ、外部有識者からの意見・助言等を施策の実現へ活かしていく。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	より実践的・具体的に施策に反映していくため、引き続き研究会を実施していく。

況議 (要 旨 問 状)	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	都電荒川線活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	三宮	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	都電荒川線活用事業（01-02-02）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ● それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成 19 年度	根拠			
終期設定	○ 有 ● 無 年度	法令等			
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準	計画区分	● 計画	○ 非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。23年度に100周年記念として区内、実行委員会と連携して展開したイベント等の盛り上がりを一過性のものとせず、より一層の知名度及びイメージの向上を図る。				
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者				
内容	<p>○都電荒川線ウォークラリー 都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、平成19年度から北区との共催により実施してきた。 【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：11月3日（土） ・実施主体：荒川区及び北区（主催）、東京商工会議所荒川支部及び東京都交通局（共催） ・コース：5コース（南千住、町屋、尾久、王子、滝野川） ・区内参加商店街：11商店街 <p>○都電荒川線100周年記念事業※平成23年度のみ</p> <p>【荒川区主催事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電100周年ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など <p>【記念事業実行委員会主催事業】※荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電サミット（7/24）、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 <p>○都電荒川線沿線4区協議会事業</p> <p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線沿線絵画コンテスト ・都電荒川線沿線スタンプラリー（9月中旬から10月下旬実施予定） ※本スタンプラリーの実施に伴い、都電荒川線沿線ウォークラリーは今後実施しない。 <p>○都電特別号の運行 都電バラ号 平成24年度～、都電ハロウィン号 平成24年度～、都電さくら号 平成24年度～</p>				
経過	平成23年度は都電荒川線が100周年を迎えたため、沿線4区及び交通局と協力して、また荒川区独自で、都電に関連した各種イベントを実施。24年度以降は沿線4区地域活性化協議会として引き続き連携して活動。				
必要性	区の観光資源である都電荒川線を中心としたイベントを開催することにより、区のイメージアップ・PRにとどまらず商店街の活性化に寄与するところは大きいと考える。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
		予算額	1,153	1,087	1,113	1,205	1,935	1,413
	①決算額（25年度は見込み）	876	876	971	802	1,726	919	301
	②人件費等		2,965	2,850	3,052	5,505	4,131	
	③減価償却費				1,017	2,022	1,614	
	【事務分担量】（%）		35	35	35	65	50	
	合計（①+②+③）	876	3,841	3,821	4,871	9,253	6,664	301
実績の推移	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	876	3,841	3,821	4,871	9,253	6,664	301
	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	都電荒川線沿線ウォークラリー	実施	実施	実施	実施	実施	実施	—
	都電荒川線100周年記念事業					実施		
	都電沿線絵画コンテスト					実施	実施	—
	都電荒川線沿線スタンプラリー							実施

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
一般需用費	参加記念品ほか		214	参加記念品ほか	240	特別号装飾ほか	301
	台紙、ポスター印刷		293				
	委託料	会場設営委託ほか	364	会場設営、台紙・ポスター印刷	649	会場設営、台紙・ポスター印刷	685
	使用貸	都電等貸切（ツアー）	55	コンテスト入賞作展示	30		
	負担金補助	100周年事業負担金	800			都電沿線4区協議会負担金	500

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	都電荒川線沿線ウォークラリー参加者数（人）	306	1,774	1,713	—	—	22年度は荒天のため時間短縮
②	都電荒川線沿線スタンプラリー参加者数（人）				1,000	1,500	
③							

問題点・課題 (指標分析)	①都電沿線の活性化については、沿線3区及び交通局と連携して進めていく必要がある。
	他区の実況 (実施 3 区 未実施 19 区)

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒川区と北区の2区で開催していた都電荒川線沿線ウォークラリーについては、新たに沿線4区すべて連携したスタンプラリー事業として実施する。	沿線4区連携によるスタンプラリーについて、25年度の実施結果等を踏まえレベルアップ及び定着を図っていく。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
継続	継続	今後も沿線3区及び東京都交通局と連携して、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図っていく。

議会 (要旨)	H18一定 観光産業振興を図るため、花電車を走らせたかどうか。 H18四定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。
------------	---

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	受入体制整備事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	吉野、村中、池田	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	受入体制整備事業（01-02-03）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 25年度 ○ 24年度）		○ 建設事業		● それ以外の継続事業
開始年度	○ 昭和 ● 平成	17 年度	根拠	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金交付要綱	
終期設定	○ 有 ● 無	年度	法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ● 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	● 計画	○ 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	観光客の多様なニーズに対応できる受入環境の整備促進のため、外国人旅行者にも配慮した外国語（英語、中国語、ハングル）標記の観光案内標識を整備するとともに、観光ボランティアガイドによる案内を促進させることにより、来訪者の受入体制の充実を図る。				
対象者等	来訪者				
内容	<p>1 観光案内標識設置事業 東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 17年度 日暮里地区 4基 18年度 南千住地区 5基 19年度 都電荒川線沿線 5基 20年度 隅田川沿岸 5基 21年度 日暮里地区4基の改訂、標識清掃の開始、 22年度 南千住地区5基の改訂、三ノ輪停留場標識を都から移管 23年度 都電荒川線沿線5基の改訂 24年度 汐入地域5基及び都電三ノ輪橋停留場1基の改訂</p> <p>2 外国人来訪者受入体制整備支援事業(平成20年度～) ・外国語版ホームページ・パンフレットの作成支援：区内の宿泊施設を営む事業者が外国語版のホームページ又はパンフレットを新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助する（助成件数：20年度2件、21年度1件、22年度1件、23年度1件、24年度0件）。</p> <p>3 観光ボランティアガイド (1)養成講座の実施（平成18年度全10回27人登録、19年度全10回15人登録、20年度全10回23人登録、21年度全10回6人登録、22年度全10回16人登録、23年度全10回8人登録、24年度全8回10人登録） ＊登録者数75人 (2)観光ボランティアガイドの活動（平成18年度～）</p>				
経過	観光案内標識設置事業：平成17年度事業開始(04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え) 外国人来訪者受入体制整備支援事業：平成20年度事業開始 観光ボランティアガイド事業：平成22年度から観光情報提供事業より移管				
必要性	多言語の観光ボランティアガイドによる案内や標識等の整備を進めることは、来訪客の満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員)				

		(単位：千円)						
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
予算・決算額等の推移	予算額	6,000	10,005	2,262	2,868	1,721	1,753	1,254
	①決算額(25年度は見込み)	5,961	6,635	1,540	1,890	819	592	1,254
	②人件費等	3,416	5,082	3,257	3,924	5,928	7,022	
	③減価償却費				1,307	2,177	2,743	
	【事務分担量】(%)	40	60	40	45	70	85	
	合計(①+②+③)	9,377	11,717	4,797	7,121	8,924	10,357	1,254
	国(特定財源)							
	都(特定財源)	5,961	6,238					
	その他(特定財源)							
	一般財源	3,416	5,479	4,797	7,121	8,924	10,357	1,254
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	観光案内標識設置(改定)	5	5	(4)	(5)	(5)	(5)	(4)
	外国語版HP作成支援		2	1	1	1	0	2
	ガイド活動	7	9	16	23	26	25	30

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	ガイド養成講座謝礼	14	ガイド養成講座謝礼	32	ガイド養成講座謝礼	87
	需用費	ガイド消耗品等	111	ガイド消耗品等	71	ガイド消耗品等	160
	役員費	ガイドボランティア保険等	8	ガイドボランティア保険等	23	ガイドボランティア保険等	33
	委託料	標識更新委託	305	標識更新委託	231	標識更新委託	235
		標識清掃委託	265	標識清掃委託	235	標識清掃委託	235
						PRチラシ作成	104
	補助金	外国語版HP作成支援	116	外国語版HP作成支援	0	外国語版HP作成支援	400

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
標	① 設置標識数	19基	19基	19基	19基	19基	数値は累計
	② 外国語版HP等作成支援	4件	5件	5件	5件	5件	数値は累計
	③ 観光ボランティアガイドの活動	23回	26回	25回	30回	35回	来訪者からの依頼に基く活動数

（問題点・課題）	①ガイド依頼が地域的・内容的に偏っており、新たな魅力あるコース開発が必要である。 ②新たなニーズにも対応していくため、観光ボランティアガイドの資質をさらに向上させることが必要である。 ③依頼数を増やすため、ガイドについて区内外にPRする必要がある。
	他区の実況 （実施 6 区 未実施 22 区） 観光案内標識…台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	観光ボランティアガイドについて、コース例や企画予定などを盛り込んだ新たなチラシを作成し、PRの強化を図る。	PR方法について新たな方法を開拓し、一層の周知に努める。
②	24年度に作成したボランティアガイド用マニュアルの活用に加え、発声方法の習得や他団体視察等スキルアップ研修会の実施により、ガイドレベルの向上を図る。	ボランティアガイドのスキルアップ研修会については、新たなメニューの追加も含め、今後も必要なものについて随時実施していく。
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	推進	引き続き観光ボランティアガイドの養成とさらなる資質の向上を図る。

況議 （要質 旨問 状）	H20三定 外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
-----------------------	---------------------------------------

事務事業分析シート（平成25年度）

No1

事務事業名	奥の細道千住あらかわサミット事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井
		担当者名	池田、村中	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（25年度）	奥の細道サミット事業費				
事務事業の種類	● 新規事業（● 25年度 ○ 24年度） ○ 建設事業 ○ それ以外の継続事業				
開始年度	○ 昭和 ● 平成	25 年度	根拠		
終期設定	● 有 ○ 無	26 年度	法令等		
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画	● 非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市[Ⅲ]			
	政策	人が集う魅力あるまちの形成[06]			
	施策	観光による地域活性化の推進[06-01]			
目的	奥の細道旅立ちの地である千住をPRし、観光及び地域振興を図るため、平成26年度に「第27回 奥の細道 千住あらかわサミット」を開催する。25年度は、事前PRと区内の機運を高めるためプレイベントを実施する。				
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・区民及び来街者 ・奥の細道サミット参加自治体関係者 				
内容	<p>【プレイベントの概要】</p> <p>(1) 記念講演会 日時：平成25年10月21日（月） 午後1時開場 会場：日暮里サニーホール（ホール収容人数 約500名） 内容：第一部 講演「(仮)人間・芭蕉とその旅」 俳人 金子兜太氏 第二部 トークショー 荒川区観光大使 城戸真亜子氏</p> <p>(2) 千住まちあるきツアー 観光ボランティアガイドによる南千住を中心とした千住まちあるき 日時：平成25年10月17、26、30日の3日間 約3時間のコース 募集人数：各回50名</p> <p>(3) パネル展 荒川ふるさと文化館にて開催</p> <p>※プレイベント実行委員会を立ち上げ、地域の意見を反映し連携しながら事業を進める。</p> <p>【さらなる情報発信、PR】 サミット開催の機会をとらえ、より一層のPRを行う。 ・区ホームページでの情報発信 ・ゆかりの団体でのPR（岩沼市、大垣市）</p>				
経過	「奥の細道サミット」は、奥の細道紀行300年を契機として、奥の細道ゆかりの市町村等が芭蕉翁の業績をより一層顕彰することなどを目的として昭和63年に発足した。荒川区は平成19年度から参加している。				
必要性	本サミットを荒川区で開催することで、南千住を奥の細道旅立ちの地として観光資源化していくための対外的な一層のPRと、地元の盛り上がりの双方において大きな効果が期待できる。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員) 実行委員会に対する補助（25年度当初予算額3,102千円）				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
予算額							3,333	
①決算額（25年度は見込み）								
②人件費等								
③減価償却費								
【事務分担当】（%）								
合計（①+②+③）	0	0	0	0	0	0	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	0	0	
実績の推移	事項名	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度

事務事業分析シート（平成25年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成23年度（決算）		平成24年度（決算）		平成25年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	旅費					奥の細道岩沼サミット参加	173
	役務費					まちあるき行事保険	5
	委託料					イラスト作成	53
	補助金					実行委員会補助	3,102

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		22年度	23年度	24年度	25年度 (見込み)	目標値 (26年度)	
①	奥の細道サミット関連イベント数				4	5	まちあるきイベント、企画展など
②							
③							

(問題点・課題分析)	<ul style="list-style-type: none"> 単なるサミットの開催だけでなく、本サミットを契機とし、地域全体として奥の細道・松尾芭蕉を盛り上げ、さらには俳句文化を一層区民に広めることが求められる。 そのためには、地域の観光関係団体・文化団体や教育委員会事務局などと連携して進めていく必要がある。
他区の実況	<p>（実施 2 区 未実施 20 区）</p> <p>「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか江東区、足立区の2区。</p>

問題点・課題の改善策		
	平成25年度に取り組む具体的な改善内容	平成26年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	地域関連団体の代表者等を中心とした実行委員会を設立し、地域全体として奥の細道サミットに向けた機運を醸成する。	関連団体などにおける奥の細道関連イベント等の実施を促進していく。
②		
③		

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
25年度	26年度	
推進	重点的に推進	「第27回 奥の細道 千住あらかわサミット」については、平成27年3月の開催予定であり、当事業については26年度に重点的に実施する。

況議会(要質問旨)状	H25一定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき（菅谷）
------------	--